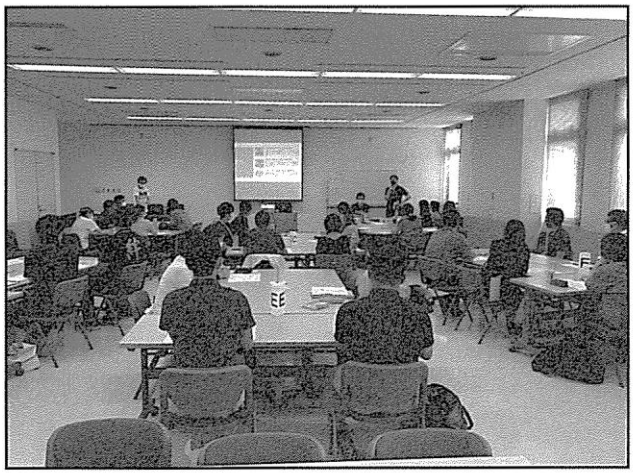
地域福祉活動職員の
まなこ
地域福祉活動推進のために

No.91　2022年　3月発行　福岡県地域福祉活動職員連絡会



【社協職員の発想力向上委員会】

～“言う気”は“勇気”～

向上長　うきは市社協　國武 竜一 氏
副向上長　志免町社協　宿利 幸央 氏
アシスタント　筑後市社協　卜部 善行 氏
とき　2021年7月17日(土)
13:30～
ところ　ピーポート甘木

「全国の社協は同じ活動をしている?」そんな○×クイズがあったら、答えは「×」と答える人がほとんどだろうと思います。例えば、過疎地域の社協と都市部の社協、山間部の社協と沿岸部の社協など、その地域によって社会環境や生活環境は異なるからです。つまり、私たちが進める地域福祉活動はオーダーメイドで地産地消の取組であるとも言えます。

これを前提にすると、各社協のコミュニティワーカーがそれぞれの地域において課題をキャッチし、その地域に合ったやり方で地域福祉活動を進める必要がありますし、もっと言えば発想力、オリジナリティが求められる活動だと言えます。

しかし、社協によっては事業の細分化等により自分で考え、自分で発想するという機会に恵まれない職員もおり、ひいては発想力・企画力を養う場が激減しているような状況も見受けられます。そこで、本研修会では「発想力」に着目し、地域福祉を興していく視点についてグループワークや講師の助言をいただきました。

セッション① まずは頭を柔軟にしよう

60枚の絵だけ描かれたカードを見て、それから連想できる遊びやゲームをグループ内で出し合い、ただの絵としてみるのではなく、使い道を生み出していく。

地域に溢れている物事に付加価値を生み出すのは社協ワーカーの仕事であり、なくてはならないスキルである。

セッション② 物事を多面的にとらえる力を養おう

童話の桃太郎を例にあげてみると「鬼退治をしてめでたしめでたし」は、桃太郎側の視点であり、鬼側から見てもめでたしなのか。

一つの物事や状態に対して、多くのものの見方ができていたほうがよい。

一面的だけではなく、多面的に物事を捉え、物事をひっくり返して考える癖をつけ、人物や出来事の背景にある物を考える努力が必要。

(例)「24時間営業のスーパー、深夜に子連れで来ている」親を肯定してみてください。

セッション③ 肯定する力を高めよう

全国各地で「空き家」が増えていることが問題になっている。「空き家」は何が問題？

「雑草・悪臭などの衛生環境悪化」「景観の悪化」「不法侵入などによる治安の悪化」「防災上のリスク」「生命・身体への被害のおそれ」・・・・

では、逆に、空き家はどのような「社会資源」になりうる？発想してみよう。

一見課題に見えても見方を変えると社会資源になりうる。課題と社会資源は表裏一体であると思う。

セッション④ 鳥目線で考える、今地域で気になる課題

個別課題だけに目を向けるのではなく、今地域で課題になっていることにも目を向け、鳥目線で地域社会を見渡した時に課題となっていることを洗い出してみる。

木を見て、森を見る力も社協ワーカーには、必要。

今地域で課題になっていることを洗い出してみよう。

セッション⑤ 発想力を鍛える

セッション④で出し合った課題を掛け合わせるとプラスになるのでは？

マイナスとマイナスを掛け合わせるとプラスになることもある。

（例）「空き家」×「ＤＶ」＝「シェルター」のように地域課題も組み合わせ一つでいくつもの課題解決につながる。

今自分の地域で課題となっていることを組み合わせてみよう。

まとめ 地域にWin-Winの関係をつくりましょう！

支えあいは、「支援者→非支援者」の一方通行ではない。自分に出来ることをし、お互いに支えあわなければいけない。

弱さがすべていけないわけではない。弱さが時に人を支える強さになる。

地域福祉は、オーダーメイドで地産地消であるため、社協は、生みの苦しみを味わう。

住民の困っていることに着目するのも大切であるが、「やりたいこと」に目を向けて取り組むことも大切。

地域の本質をしっかりと探り、そこから地域にある"課題"を元に、その地域でしか語れない"地域資源"へと紡ぐ。その時とても有効なのがクリエイティブ。ぜひ、クリエイティブを有効活用して地域を活かしていって欲しい。

研修を研修で終わらせないために。問われているのは誰？

縁あって企画段階から関わらせていただきました。

「研修事業」と一口に言ってもそこには様々な意味合いがあるものです。

企画段階では参加者が直面する課題や思い、今の状況などを想像しながら地職連の役員さん方と議論を重ね、研修内容を創造するプロセス自体に大きな刺激をいただいたり、新たな気づき・学びをいただいたりするものです。

また、本研修は流行りのオンライン開催ではなく、集合研修として実施。研修時間は約2時間半でしたが、研修の前後の時間にこそ意味があって、名刺交換をし、互いの活動や悩みを共有しながら会話する。まさに「つながるきっかけ」になるように思います。

地域での活動も同様だと思っていて、何かの企画を行う場合、それをきっかけに住民との新たな出会いがあるなど、それに付随して生み出される副産物にこそ価値があったりするものです。

今回の研修も、研修そのものも大切ですが、これをきっかけに何かが生み出されることを期待しています（もちろん、私自身もその一人で、研修に関わった者として生みの苦しみを味わっていきたいと思っています）。

さて、前置きが長くなってしまいました。研修はグループワークを主として、向上長や副向上長から教わるのではなく、自ら答えを見出していくというスタイルで行なっていきました。

その中では、

「同じ物や出来事でも、捉え方は１００人１００様である。つまり、問われるのは私たちの感覚」

「私たちの捉え方次第で、課題となることもあれば、社会資源になることだってある」

「つまり、課題と社会資源は表裏一体」

「マイナスとマイナスをかけたらプラスになる」

「地域のいろんなことを掛け合わせたら、楽しいことができそうだ」

「社協にいると、いろんな情報が入ってくる。それを縦割りで考えるのではなく、つなぎ合わせていくことが大事」「たぶんそれは『業務』ではなく『役割』。『自分の役割とは何か』を考えることが必要」

そんなことを感じた研修となりました。

本研修に参加された方のアンケートには、たくさんの気づきや学びがあったとたくさん書かれていました。企画運営に携わった者の1人としてとても嬉しく思います。教わったことと学んだことは異なります。私も皆さんに倣い、学ぶ姿勢を持ち続け、発想力を意識しながら、時には遊び心も持ちながら社協活動に取り組んでいきたいと感じました。

最後に。

研修を研修で終わらせないために。

地域に課題があるのではなく課題にする。

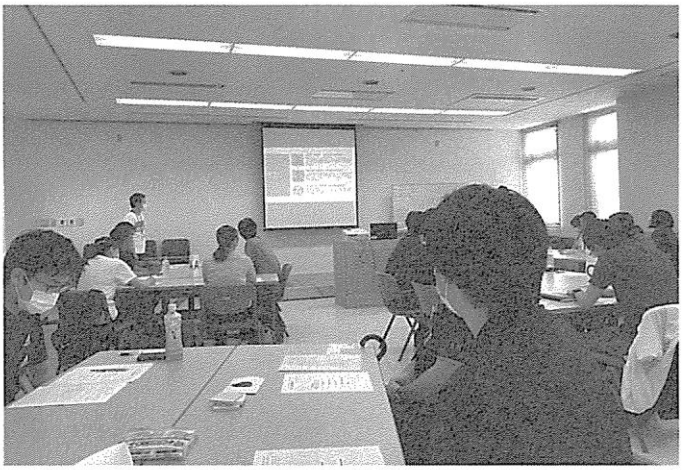
社会資源があるのではなく社会資源にする。

住民主体も大事。社協ワーカーの主体性も大事。

問われているのは誰？

自戒を込めて。

（筑後市：卜部）



研修を終えての感想

コロナ禍の中で、オンラインの研修ばかりの日常だったことから、研修を通して人と人とが対面し、一緒に考えていく喜びを感じ「本当に楽しかった」が素直な感想です。

研修のテーマのように、社協職員の発想力向上委員会～〝言う気〟は〝勇気〟～ということで、グループワークを通して、参加者一人ひとりが様々なセッションを通じて、主体的に研修に参加することができたのではないかと考えています。

その中でも、今回の研修で私が得た学びや成果としては「違うことを恐れない勇気を持つ」ことです。県内の社協職員が集い、同じテーマをみんなで議論をしていく中で、ちょっと現実から離れたような意見でも「こんな視点ってあるったい」とみんな笑顔になり議論をすることができました。主体的であれば、テーマと脱線するような違った意見でも、社会資源になりえる掛け合わせとなり、こういった積み重ねが発想力・企画力を養っていく礎になっていくのではと考えました。

仕事をしていくうえで「調整」や「忖度」も必要なお年頃ですが、自分が人と違った意見を持っていることがもしかしたら強みになるのではと勇気が出ました。今回の研修で得た「違うことを恐れない勇気」を持ちながら大人の階段を上っていきたいと思います。

（八女市：棚町）

研修ありがとうございました。最初、研修の時間を見たときに、わぁ～2.5時間もあるんだ～絶対寝る～、と思っていましたが、寝るどころか、楽しくてあっという間でした。

導入の頭を柔軟にする過程→物事を多面的に違った視点で見る→否定されがちなもの（人）を肯定し、背景をイメージする→地域の課題を見出し→掛け合わせることで解決。普段全く頭の動かない私もすんなり理解して、考えていくことが出来ました！

合間にコメントされた向上長・副向上長のご意見もすごく参考になり、「常にマイテーマを持っておくこと」「自分の自治体、事業、担当外の事業の基本情報を頭に入れておくこと」さっそく実行しようと思います！

今日のグループワークで、一緒に考えて頂いたメンバーさん達にも、今後たよってみようと背中を押していただいたように思います。

とてもためになる、面白い研修ありがとうございました。お疲れ様でした。

（筑後市：宮原）

新人の私として、難しい内容の研修と想像し不安な日々を過ごしてきましたが、私にも理解できる内容で、ワークの段取りの話も分かりやすく、勉強になり、また楽しめる時間ともなりました。

物事を多面的にみる力・肯定する力は普段にない考え方で、そういう意識を持って行動に移していけば、物事の見方がかわり、今までにない発想が生まれるかもしれないと少しワクワクする自分がいます。

ただ入職して3ヶ月なので、自分の役割をしっかりはたして、その上でレベルアップしていきたいと思います。

（那珂川市：山下）

この研修に参加できてよかったと思います。

自分の頭のかたさを痛感し、柔軟さが大事だと改めて思いました。グループワークで様々な角度から意見がたくさん出て、他のグループの意見も聞き、すごいなと思い、今後の取組の中で活かしていきたいと思います。

物事を多角的にとらえる力は、住民(困窮者)からの相談を受けた際にも意識しなければと感じ、自分の基準や考え方だけで見ないようにしなければと思いました。

マイナスとマイナスをかけてプラスにかえる。自分のテーマをもって今後取り組んでいきたいです。

(小郡市：高木)

私は、業務中やプライベートで「地域福祉に対して、自分が或いは社協が何かできることはないか」一人でふと考えることがあります。自分ひとりで考えこみすぎてしまい、何をしたいか、どう進めていいのか分からなくなることがほとんどです。今回の研修で、「発想力を向上させ、地域課題の解決に何かヒントがないだろうか」そのような思いで参加しました。

研修を通して、異なる社協職員間でも同じ地域課題を抱え、その課題に対して個性豊かな考え方や楽しみながら考えていくことで、今まで難しく考えていたことが少し楽になった感じがありました。

今回で知り合った社協職員と今後とも意見交換や交流していく中で、自分の地域の課題解決になったらと思います。また、発想力向上のため、日々情報を仕入れていきたいと思います。

(うきは市：西岡)

本日はありがとうございました。

研修を受講し、あらためて「発想力」の重要性を感じました。仕事上でも、自分の担当している事業で、進め方等で困ることがあり、相談することはありますが、なかなか良い発想が出ることはありません。その際に、職員全体で今のグループワークのような協議の場そして、地域の課題を解決につなげるためには、社協職員が考えるのではなく、住民とこのような協議の場を設ける必要があるのでは、と思いました。

課題を考えるときは、社協職員の目線で物事を考えがちになりますが、住民目線、客観的な目線で考えようと思いました。そのためにも、その地域に住む方々との信頼関係を築いていこうと思います。

また、仕事をしていく上でのテーマ、住民としてのテーマ、それをかけ合わせるという発想、参考になりました。自分の社協の事業を把握し、確固としたテーマを持てるように業務に励みたいと思いました。

(苅田町：永松)

【社協職員の企画力向上委員会】

想いを“カタチ”にするために

講　師　鞍手町社協
　　池本 賢一 氏
　　うきは市社協
　　中川 史高 氏

と　き　2021年11月4日(木)
　　13:30～17:00

ところ　リファレンス駅東ビル 会議室Y-1

変わりゆく課題に対し、地域が求める活動を地域とともに、いかに「カタチ」にしていけばよいか、鞍手町社協 池本賢一さんによる講義、うきは市社協 中川史高さんによるグループワークを行い、社協職員に求められる企画力について学びました。

「社協の事業」とは？

社協は、その時代、社会背景、地域の状況に応じて「地域・住民主体」を基本としつつ、必要とされる役割を果たしてきたといえます。住民主体による地域福祉の推進というゴールはすべての社協に共通していますが、地域が異なれば課題や主体となる住民そのものも異なるため、当然のことながら、事業に差が生まれます。

社協が目指すべきゴールは、地域において「つながりを作る」「暮らしを守る」ことであり、事業はその手段にしか過ぎません。

社協の事業は必ず、地域に内在するニーズが事業実施の根拠になります。根拠もなく安易に展開している事業は、もはや社協事業とは呼べないのです。

そもそも社協が行う事業とは、住

民に「活動させる」ものなのか、それとも住民活動の創出、活動の支援を行うものなのか。住民の気づきを促し、またその活動をいかにサポートしていくかが社協事業に問われているのではないでしょうか。

自分たちの地域の福祉実践を「層」でとらえ、地域を見直す

地域福祉実践を「層」で捉えてみます。現在に至るまでの層が地域の状況であり、積み重ねてきた住民の活動となります。当然、この層は地域によって異なります。この作業を通して、まずは、自分の地域にある資源、足りないもの、残された課題を整理整頓し、見直していくとよいと思います。

課題が見えてきたら、発見された課題（ニーズ）が、地域住民がすでに気づいているか、いないかで大きく二つのやり方があります。

まず一つ目は、住民の気づきを促すための事業を実施するパターン。これは職員しか気づいていないため、職員の見立てに依存する比率が大きくなります。この事業を実施することで、地域がどうなるのか、住民に気づいてもらって、その先をどうするのかを見通せるものでなければなりません。

もう一つが、先に住民との協議の場を設けて、そこで合意形成を行い、その流れで活動を考え出していくパターン。これは、ある程度住民との話し合いができているため、活動の意義を住民に理解・納得してもらって、住民が自分たちで実践可能な形で考えた活動、つまり、その地域に根付いた活動に至ることができます。

地域住民が自分たちで認識して初めて『地域課題』となる

地域住民が「その課題は解決していくべきだ」と「我がごと」として認識して初めて「地域課題」となります。

個別課題を地域課題にしていく。個別課題を普遍化する（我がごととして捉えてもらう）作業が必要です。

一人一人が抱える課題は個別性が高いので、社協職員には、他にも困っている人はいないかという視点、普遍化していく視点がないと地域での事業展開は難しいと思います。地域住民に共通して抱える課題があっても、それは行政・社協がする仕事と言われてしまえば、サービスにはつながったとしても、住民活動にはつながらない。つまり、「我がごと」として捉えて、住民が活動の意義を見出し、主体的に実施していかなければなりません。

社協は、この「地域課題」を解決していくことがミッションとしてあるはずです。

サービスなのか、事業なのか

サービスの開発と住民支援、地域福祉活動を生み出すための事業ではアプローチが全く違います。

まずは、必要と考える解決方法が、サービスによる解決が良いのか、住民活動へとつなげていく事業が良いのかを判断する必要があります。

サービスから入ったものは、住民にとっては恒久的に受けられるサービスとして位置づけられるため、その後、住民で行ってもらうように切り替えていくことは相当な難しさがあります。また、サービスとして展開していくと、ほぼ恒久的に続けていくことになりかねないため、継続性、予算、実施体制など、十分な検討が必要とされます。

場合によっては、サービスを実施できる体制づくりのための事業もあります。この場合のゴールはサービスですが、その担い手に住民を位置付けた場合、住民に「やらせる」という態度になる危険性があるため、注意が必要です。

事業を企画する上で、いろいろな情報の整理が求められます。課題の把握、地域の状況の整理など地域アセスメントを行い、課題があって、サービスが良いのか、事業展開していって住民活動として良いのか、見立てが出来た段階で企画書を作成していくという手順になります。

企画していくために必要な『力』は？

一つ目は『ニーズキャッチ力』。地域の課題を知らないと始まりません。これは、企画する云々の前に、社協職員として備えておくべき力です。

地域アセスメントというと、どうしてもニーズの把握に偏りがちですが、現在の社会資源や統計データ、住民との世間話など、地域の強み、歴史に至るまで、さまざまなものから情報としてストックしておくことが重要です。そこで課題に分類できるものがあれば、それも把握したニーズになります。

二つ目に『見立てる力』。課題解決のためにどのような手立てが必要かを考えられる力、いわゆる発想力です。発想するためには、材料となる情報が必要となり、思いつくための材料を集めないと何もひらめきません。先進地視察や現在実施している

事業から「なんでこの地区はこの事業をしているのか」を考えて勉強することなども役に立ちます。

三つ目に『広い視野で考える力』。組織の体制、財政状況、地域の主体性、関係機関の理解の度合いなど、事業を展開する上で、いくつもの情報・状況把握を同時にしておかないと上手くいきません。

福祉業界だと福祉ばかりにフォーカスしがちですが、あらゆる分野からの情報をストックして視野を広げておくことが大事です。

当然ながら、事業をやる上で費用はいくらかかるのか、といった総務も含めた全体的視点を持つことも必要になってきます。

四つ目に『先を見通す力』。その事業を実施することで、地域がどうなるか、その事業を継続するのか、事業そのものをきっかけに使って別の活動を作るのか、先を見通しましょうということです。そして、その先には社協が目指すゴールがあるはずです。

五つ目に『行動力と柔軟性』。企画書に書いているからこうしないといけない、という考えにとらわれすぎてうまくいかない、頭で考えすぎてわからなくなった、ということはありませんか。例えば、協力が得られる地区で試験的に実施してみるなど、行動することで見えてくることもあります。特に住民の反応など実際にやってみないとわからないことも多いので、行動してみるということも重要です。また、想定と異なる状況であった場合、柔軟に変更し対応することも求められます。要は企画書を「マニュアル」ではなく、「ガイドライン＝方向性」ととらえる方が良いでしょう。大きく企画書から離れてしまう場合は、企画の再構築を行う必要は出てきますので、好き勝手にやっていいということではありませんので注意はしてください。

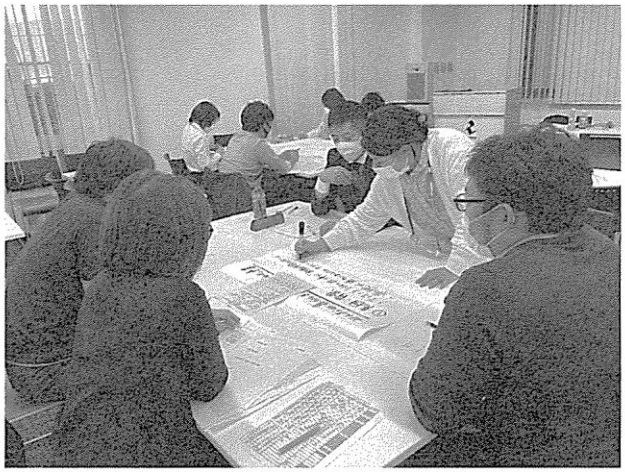
事業の立ち上げはプレゼン！

社協の事業は、事務局、役員会、そしてなにより地域住民の理解、納得、協力、主体的な関わりがなければ実現しません。

新しい事業を立ち上げるにせよ、従来のやり方を変更するにせよ、周囲の同意が必要となります。

社協が資源として持っているものは限られています。だとすれば、周囲の協力を得るしかありません。同意を得るためには、根拠をまくしたてるのではなく、相手に「良いね」「やってみよう」と思ってもらえるような説明の仕方が必要です。「楽しい」「やりがいがある」「自分にメリットがある」などの副産物がなければ、嫌なことは誰もやりたがらないし、長く続きません。

住民にとってどのようなメリットがあるのか、住民が本当に必要としているのか、社協のミッションである住民のつながりをつくる、暮らしを守ることにどのようにつながっていくのかをきちんと説明できなければいけません。



企画そのものではなく、企画する過程こそ社協職員に求められる仕事

事業の立ち上げ、企画化にあたっては、その事業が行われることによって、どのようなまちになるのかが最も問われる部分になります。「これをやりたい」はあなたの希望であって、「これをやったらこの地域はこう変わる」が社協職員としての企画です。

地域住民の声や課題がみえない、社協がやりたいこと、自分が思っていることで企画を進めていくといつか失敗します。こちら側だけが求める企画を作ってしまうとそれが上手くいかないだけでなく、その後の地域との関係性までダメになってしまいます。

地域の人が納得し、一緒にやっていこうと思うからこそ、地域福祉の活動を推進していける、社協の仕事になるのではないでしょうか。

同じような地域福祉活動でも、その地区、地域によってストーリーやきっかけが必ずあります。「地域を歩く」「つぶやきをひろっていく」「課題を共有する」ための一つ一つの過程を大切に、その前段の過程があって企画は立てられていくのです。

社協は多くの事業を実施していま

すが、いつの間にか事業の企画自体が目的になっていませんか。

住民から困っているという声は本当になくなったのですか。自分が気づいていないだけではないですか。地域と向き合い、先を見通し、社協職員としてその地域に求められる活動を地域住民とともにカタチにしていく。それが社協事業の企画だと思います。

研修を終えての感想

想いをカタチに…それは、単純に自らの想いを具現化することなのか？

社会福祉協議会の「企画力」。それは、単純にアイデアを創出することではなく、生活様式や家族形態、時代ニーズの『変化』に常にアンテナを張り、「必要性」「タイミング」の『理由』を見極め、「人」「モノ」「財源」等の構成を『理解』し、組織内や地域住民に対して想いを『発信』できる、発想力と思う。

近年、法律改正や制度の変化に伴い、行政等からの委託事業が増える中で、目の前の業務を遂行することに追われ、「社協の本来の役割」を無意識のうちに見失うことが多いように思える。

そういった課題と本質を念頭に入れ、今回の研修の振り返りを、ここに記したい。

社協の存在意義…今、問われている企画力＝社協事業とは？

講義には、多くの「ポイント」と「立ち返るべき本質」があったかと思う。

まず、「事業の在り方」。近年、様々な事業が増える中で、事業を遂行することがゴールとなってしまっていないだろうか。本来、事業を遂行することは、ふだんのくらしの幸せを守るという社協のゴールが先にある中で、それを遂行するための手段として置かれている。この視点を捉え間違えてはいけない。

次に、「事業の根拠」。目の前の事業を遂行することに追われ、「なぜ、この事業を遂行するのか」「なぜ、この地域には事業が必要なのか」という根拠をつい忘れがちになってしまう。その事業が果たすべき根拠こそ、地域課題（ニーズ）である。地域には個別課題もあれば、共通課題もある。こういった課題を普遍化し、地域住民が我がごとと認識できるような見出しをともに行っていかなければならない。だからこそ、我々社協職員は常に地域を見つめ、課題の発見・把握を意識しなければならない。

さらに、「先を見通す」。その事業を遂行することで、どのような地域になるのかという「先」を見通していない限り、その場しのぎの事業に終始し、地域課題の本質的な解決には結びつき得ない。その事業から、「どういう解決に結びつくのか」「そもそも、地域住民は課題として認識しているか」ひいては、「社協が本当に果たすべき事業企画なのか」という見立てを持ち続ける必要がある。

最後に、「行動と交渉」。これらのことを机上で考えることは不可能に近い。地域住民との協議や話した時の反応確認、福祉分野以外の方との交わりを生み出す行動力と、自らの想いを乗せた事業企画を提案するプレゼンや相手に納得してもらえる説明の仕方、社協内での合意形成を図る交渉力を養い、発揮すべきタイミングに100％の能力が発揮できるよう、常に自己研鑽を積まなければならない。

社協の企画力には、様々な力が必要になるわけだが、どの力も真新しいものではなく、日頃からの業務で果たすべき役割であると、講義を通して感じた。講師が伝えた、「事業を考える力を日々養うこと」とは、1つの視点で物事を捉えず、あらゆる分野の情報をストックし、事業や住民の声の本質を見極め、当該社協の財政や運営状況を正しく理解し、私自身の想いは本当に地域住民が求めていることで、住民の幸せな姿が先に見えるかどうかを「常に考える」ことではないかと私は思う。

プレ実践…事業の主語を見失っていなかったか？

今回の研修では、「自らの想いを企画案に」が事前ワークとして配られており、その中からグループで1つの事業を具現化するグループワーク、そして会場参加者を組織あるいは地域の対象者と設定し、プレゼンテーションを実践した。

全体を通して、事業の主語を見失っていたかと思う。提案した事業案は「社協が果たすべきものだったのか」、「その先に地域住民が見えていたのか」。そもそも、『根拠』『見通し』『交渉』が備わっていたのか。限られた時間の中ではあったため、100％とはいかないにしても、そのような所感が会場全体に漂っていたように思う。前半の講義が後半のワークに活かされていなかったことも反省する点である。

また、プレゼン中は参加者からの厳しい（意地悪？笑）質問が出されており、その回答ができた・できなかったがあったかと思う。ただ、私個人からすると、あの時の質問を「そんな質問は出らん」「厳しい」「いじわる」と思っている時点で、我々社協職員の成長は『止まる』と思う。なぜならば、あのような質問はむしろ、「当たり前」「想定できる」「より現実的」なものだと思ったからである。

いずれにせよ、ワークで見えた基本的な考えやプレゼンの失敗を反省することは、自分に足りない『穴』が見つかったと前向きに捉えるべきである。講義の中にもあった『穴』（すなわち組織や相手を納得させるために「より考える必要性」「より伝わる説明」「良いと思ってもらえる伝え方」の不足点）をいかにして埋めていくか…、この気づきがワークの意義だったと考え方を転換したい。

今からの私たち…研修を実践に活かせているか？

講師2名からのまとめにもあった通り、私たち社協職員は、「地域アセスメントの甘さ」「主語の意識」「先の見通し」「交渉力の準備不足」「対象の目線・立場の理解」など、まだまだ足りないことが多い。

ただ、先述した通り、この研修を通して、自らの姿勢の振り返りと『穴』の発見ができたと思う。今からの課題は、この『穴』をいかにして埋め、日々の生活の中で『考える力』をどこまで養うことができるかどうかである。

アイデアをひらめく人が立派とかではなく、全ての本質を理解した上でアイデアを提案できる人が「社協職員らしい人」なのだと思う。他自治体のモデル事業が立派とかではなく、解決すべき課題に対し、住民と協議し、住民とともに先を見据え、楽しみながら実施する事業が「社協らしい事業」なのだと思う。

今回の研修を、成長のきっかけと自覚し、自分自身の「社協職員としての企画力」を向上できるよう、努めていきたいと思う。

（久留米市：荒木）

ホームページをリニューアルしました。

URLも変更しましたのでブックマークやリンク等貼られている方は、お手数ですが変更をお願いいたします。

福岡県地域福祉活動職員連絡会
ホームページアドレス
https://www.f-chishokuren.org/

QRコードを読み取ってね

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

編集後記

「まなこ第91号」最後までお読みいただきありがとうございます。

コロナウイルス感染症の猛威も丸二年が経ち、まだまだ収まることを知らず、様々な行事の中止はもちろんのことこれまでつながりのあった人との距離が離れていっているように感じ、改めて、人との付き合いの大切さを身に染みている今日この頃・・・

そんな中、2年間、地職連の役員として、「まなこの編集」や「事業の企画・運営」等の貴重な経験をさせて頂き、とても勉強になりました。また、多くの社協職員の皆さんとつながりが持てたことは、何よりも大きな財産として感謝の気持ちでいっぱいです。

上毛町社協　小林

★発行者
福岡県地域福祉活動職員連絡会
★事務局
〒830-1201
福岡県三井郡大刀洗町冨多819
ぬくもりの館
大刀洗町社会福祉協議会内　担当：池松
TEL 0942-77-4877
FAX 0942-77-6220
E-mail tachi-shakyo@kurume.ktarn.or.jp
URL https://www.f-chishokuren.org/